ISSN 0286－4258

２０２３年３月８日　印　刷
２０２３年３月15日　発　行

龍谷法學

第 55 巻　　第 4 号

石塚伸一教授　退職記念論集

龍　谷　大　学　法　学　会

石塚伸一教授　退職記念論集

石塚伸一教授

第55巻　第４号（通巻207号）

目　　次

石塚伸一先生献辞 ……丹羽　　徹…　1（1265）

最 終 講 義

自由刑の起源とその伝播と継受
～アムステルダム初期懲治場と更生（よみがえり）の思想～
……石塚　伸一…　3（1267）

論　　説

フェイクニュースに対する法的規制の可能性……金　　尚均…　37（1301）

地方裁判所死刑判決数（1952年－2021年）の
地理的偏在性に関する研究序説……荻野　太司…　79（1343）

市民政策の起点と実体
―「政策主体としての市民」のパラダイム転換をめぐって―
……土山希美枝…111（1375）

問題解決型裁判所が解決すべき「問題」とは何か
……丸山　泰弘…135（1399）

無期刑受刑者に対する特別な処遇は正当化できるか
―ドイツにおける「懸隔の要請」の議論を手がかりとして―
……大谷　彬矩…165（1429）

「矯正」の再検証
――改善更生の持つ意味―― ……中島　　学…193（1457）

判例内縁法の現代的課題（４）
～平成時代以降の裁判例を中心として～ ……岡本　詔治…217（1481）

銀行の他業禁止規制に関する歴史的考察（２・完）
―銀行はなぜ他業を営むことを禁止されるのか― ……神吉　正三…251（1515）

イギリス行政法における「正当な期待」の法理の展開（４）
―行政法裁判例・判例の展開と裁判所の役割を中心に―
……眞田　章午…303（1567）

研究ノート

ホームレスの人と人権（その４）……石井　幸三…345（1609）

翻　　訳

フェリックス　オリヴィエ＝マルタン
『ローマ法における賃約の分割』（２）
—Félix Olivier-Martin, Des divisions du louage en droit romain, RHD, 15, 1936—
フェリックス　オリヴィエ＝マルタン（著）／椛山　尚子（翻訳）…383（1647）

資　　料

「木庭先生の庭」散策（２）
——法学再入門のための標準装備——……児玉　　寛…399（1663）

石塚伸一 教授　略歴および業績一覧 ……439（1703）

法学会記事

第55巻総目次

献　　辞

石塚伸一先生は、本年（2022年）３月をもって、龍谷大学法学部を定年により退職されます。

石塚先生は、1979年３月に中央大学法学部を卒業された後、同大学大学院法学研究科の博士課程前期課程および後期課程において刑事政策を中心に刑事法学を修められました。1987年に北九州大学（現・北九州市立大学）法学部講師に就任され、1989年に助教授に、1995年に教授に昇任された後、龍谷大学法学部教授として1998年に着任されました。2005年から2017年の間、龍谷大学に設置された法務研究科（法科大学院）に籍を移され、同研究科の閉鎖にともない、法学部教授として教育・研究にご尽力いただきました。

先生のご専門は刑事政策ですが、その射程は非常に広範で、犯罪学、刑罰制度、とりわけ更生保護、犯罪者処遇、さらには刑事裁判の記録、少年法にまで及んでいます。近年は、薬物犯罪者の更生、社会復帰にも強い関心を示されています。

本学ご就任以降、ほぼ途切れることなく研究代表者として科学研究費等を獲得され、多くの研究プロジェクトをリードされました。そのような共同研究を土台にして龍谷大学では、矯正・保護研究センターや犯罪学研究センターが設けられ、全国的にも評価される多くの業績が社会に向けて発信されています。石塚先生は、矯正・保護研究センター副センター長を2001年から８年間、犯罪学研究センター長を2016年から５年間つとめられ、センターの運営にも積極的に関与されました。

さらに、先生はアメリカを比較法の対象として研究を始められましたが、その後ドイツへも関心を広げられています。海外との共同研究

も多く、外国文献の翻訳とともに、積極的に海外の学会報告など行っており、法学部の国際化の先頭を走っておられます。

このような研究は、法学部・法学研究科および法科大学院の学生に大きな刺激を与えるとともに、概して外国語での講義に消極的な法学部にあって、英語による講義に結び付いているように思います。さらに数多くの講演など積極的に研究成果を社会に還元する活動も展開されています。

規程により３月末をもって退職されますが、これまでの龍谷大学法学部での教育・研究、組織運営へのご尽力に感謝申し上げるとともに、先生の益々のご健勝とご活躍を祈念しまして献呈の辞とさせていただきます。

法学会長　　丹羽　　徹

石塚伸一 教授　略歴および業績一覧

生年月日　1954年６月24日東京都生まれ

Ⅰ　学　歴

1979年　中央大学法学部法律学科卒業
1981年　中央大学大学院博士前期課程法学研究科刑事法専攻修了（〔法学修士〕）
1985年　中央大学大学院博士後期課程法学研究科刑事法専攻退学
1997年　九州大学　博士（法学）

Ⅱ　職　歴

1985～1987年　中央大学法学部兼任講師・通信教育部インストラクター
1987～1988年　明治学院大学法学部・静岡大学法学部法経短期大学部非常勤講師
1987～1989年　北九州大学法学部講師
1989～1995年　北九州大学法学部助教授
1991～1992年　一橋大学法学部　国内研修
1992～1993年　ゲッティンゲン大学およびマックス・ブランク外国・国際刑法研究所（フライブルク）に海外研修
1995～1998年　北九州大学法学部教授
1995年　ゲッティンゲン大学客員教授
1998～2005年　龍谷大学法学部教授
2001～2009年　龍谷大学矯正・保護研究センター副センター長
2005～2017年　龍谷大学大学院法務研究科教授
2015～2017年　龍谷大学ハラスメント問題委員会副委員長
2016～2021年　龍谷大学犯罪学研究センター長
2017～2021年　龍谷大学ハラスメント問題委員会委員長
2017～2023年　龍谷大学法学部教授

Ⅲ　主な業績など

1　著書・編著

- 〔単著〕『刑事政策のパラダイム転換―市民の、市民による、市民のための刑事政策―』（現代人文社）1996年11月
- 〔単著〕『社会的法治国家と刑事立法政策―ドイツ統一と刑事政策学のゆくえ

—』（信山社）1997年２月

- 〔編著〕石塚伸一＝大山正弘＝渡辺修『刑事法を考える』（法律文化社）2002年７月
- 〔編著〕『現代「市民法」論と新しい市民運動—21世紀の「市民像」を求めて—（龍谷大学社会科学研究所叢書53巻）』（現代人文社）2003年３月

  「はしがき」１～３頁

  論文「二つの刑事政策」125～146頁

  論文「薬物依存からの回復と市民的支援～北九州にダルクを呼ぶ会～」167～185頁

  論文「アミティが市民運動に与えたインパクト～京都での取り組み～」187～198頁（南口芙美との共著）
- 〔編著〕『21世紀の刑事施設——グローバル・スタンダードと市民参加』（龍谷大学矯正・保護研究センター叢書第１巻、日本評論社）2003年７月

  論文「刑事施設の過剰収容と二つの刑事政策」２～13頁

  論文「刑事施設内処遇の市民的コントロール」74～81頁
- 龍谷大学「遺伝子工学と生命倫理と法」研究会（代表・石塚伸一）『遺伝子工学時代における倫理と法（龍谷大学社会科学研究所叢書52巻）』（日本語版）（日本評論社）2003年９月

  翻訳：ヘニング・ローゼナウ「人クローンの禁止—再生的および治療的クローン」326～359頁

  論文「人クローンの禁止—再生的および治療的クローン」360～376頁

  翻訳：ハンス＝ルートヴィッヒ・シュライバー「生殖医療の法的諸問題」391～403頁

  Hans-Ludwig, Schreiber ＝Henning, Rosenau ＝ Shinichi, Ishizuka ＝ Sangyun, Kim（Hg.), Recht und Ethik im Zeitalter der Gentechnik: Deutsche und japanische Beitraege zu Biorecht und Bioethik, Vandenhoeck & Ruprecht,Goettingen: 2004

  Shinichi Ishizuka, Das Verbot des Klonens menschlichen Lebens: Reproduktives und therapeutisches Klonen in Japan. S.169-182.（独文）2004年４月
- 〔編著〕『日本版ドラッグ・コート～処罰から治療へ～』（龍谷大学矯正・保護研究センター叢書７巻、日本評論社）2007年５月
- 〔共著〕金子武嗣＝石塚伸一『弁護士業務と刑事責任—安田弁護士事件にみる企業再生と強制執行妨害』（日本評論社）2010年４月
- 〔共編著〕赤池一将＝石塚伸一編著『世界の宗教教誨』（日本評論社）2011年３月

「ドイツの宗教教誨」123～147頁

- 〔共編著〕浅田和茂＝石塚伸一＝葛野尋之＝後藤昭＝福島至編『人権の刑事法学（村井敏邦先生古稀記念論文集）』（日本評論社）2011年９月
「宗教教誨における一宗派・強制主義にいついて」871～895頁
- 〔編著〕『薬物政策への新たなる挑戦―日本版ドラッグ・コートを越えて（龍谷大学矯正・保護総合センター叢書12巻）』（日本評論社）2013年３月
第１章「DARS（Drug Addiction Rehabilitation Support）の理論と実践―日本版ドラッグ・コート実現のための障害とその克服」２～19頁、第３章「薬物対策の過去、現在―日本版ドラッグ・コートを越えて―」276～284頁担当。
- 〔共編著〕石塚伸一他＝岡本洋一＝楠本孝＝前田朗＝宮本弘典共編著『近代刑法の現代的論点（足立昌勝先生古稀記念論文集）』（社会評論社）2014年３月
論文「危険社会における予防拘禁の復活？―ドイツにおける保安監置の動揺について―」258～288頁
- 〔共編著〕徳田靖之＝石塚伸一＝佐々木光明＝森尾亮編著『刑事法と歴史的価値とその交錯（内田博文先生古稀祝賀論文集）』（法律文化社）2016年11月
論文「アムステルダムの奇跡の『神話』―自由刑における「懲治（しつけ）」と労働―」655～684頁
- 〔編著〕『新時代の犯罪学：共生の時代における合理的刑事政策を求めて（龍谷大学社会科学研究所叢書第129巻）』（日本評論社）2020年２月

２　監修・分担執筆など

- 「アメリカ犯罪学の基礎研究（１）」比較法雑誌17巻３号138～160頁
「処遇拒否権論争」「受刑者組合」152～160頁担当　1983年12月
- 「アメリカ犯罪学の基礎研究（２）」比較法雑誌17巻４号88～106頁「不定期刑」88～91頁担当　1984年３月
- 「アメリカ犯罪学の基礎研究（３）」比較法雑誌18巻１号113～132頁
「定期刑化運動」118～25頁担当　1984年６月
- 「アメリカ犯罪学の基礎研究（４）」比較法雑誌18巻２号111～131頁
「過剰拘禁」117～23頁担当　1984年９月
- 「アメリカ犯罪学の基礎研究（５）」比較法雑誌18巻３号161～180頁
「選別的隔離政策」167～72頁担当　1984年12月
- 「アメリカ犯罪学の基礎研究（６）」比較法雑誌18巻４号157～178頁
「集合的隔離政策」161～64頁担当　1985年３月
- 「アメリカ犯罪学の基礎研究（10）」比較法雑誌19巻４号81～103頁

「連邦量刑委員会」88～95頁担当　1986年６月

- 刑事立法研究会「日本行刑史の人々」法学セミナー増刊総合特集シリーズ41号（日本評論社）
  「はじめに」189～90頁、図表200～１頁担当　1988年１月
- 藤本哲也編『現代アメリカ犯罪学事典』（頌草書房）「集合的隔離政策」91～94頁、「選択的隔離政策」94～99頁、「定期刑化運動」99～105頁、「連邦量刑委員会」119～126頁、「過剰拘禁」162～168頁、「処遇拒否権論争」187～191頁、「受刑者組合」297～299頁担当　1991年８月
- 石塚伸一＝土井政和「塀の中からのハロー・ワーク：刑務所における労働と社会保障」（法学セミナー449号）94～98頁（94～96頁担当）1992年５月
- 「なぜ刑罰が必要なのか？」西原春夫他編『刑法マテリアルズ』２～18頁 1995年６月
- 刑法理論研究会『現代刑法原論第３版』（三省堂）　1996年４月
  「犯罪の生成」58～80頁、「刑の適用と量刑」329～333頁、「保安処分」333～346頁担当
- 刑事立法研究会『入門・監獄改革』（日本評論社）
  石塚伸一＝土井政和「刑務所の中からハロー・ワーク―刑務所／労働・社会保障」49～57頁（49～53頁担当）1996年４月
- 市川昭午＝永井憲一監修『子どもの人権大辞典』（エムティ出版）1997年９月
  「遊び型非行」７頁、「家出」26頁、「一時保護」41頁、「一過性非行」41頁、「違法な捜査活動」43～44頁、「嬰児殺」52頁、「冤罪事件」56頁、「開放施設」91頁、「親子心中」70～71頁担当
- 福島至編『コメンタール刑事確定訴訟記録法』（現代人文社）1999年３月
  「第８条（不服申立て）」160～171頁、「刑事確定訴訟記録法附則（第１条～第７条）」190～194頁（有田朗との共著）、「第３部実践編」245～297頁担当
- 三井誠他編『刑事法辞典』（信山社）2003年３月
  外国人犯罪49～50頁、緩刑（かんけい）化84頁、刑事制裁183～184頁、刑務作業199～200頁、拘禁心理学235頁、交通犯罪256～257頁、国際社会防衛会議276～277頁、社会治療369頁、ジャスティス・モデル377～378頁、受刑者394～395頁、受刑者の権利395～396頁、請願作業468頁、戦争と犯罪492～493頁、組織犯罪513頁、担当制544頁、治療処分558～559頁、不定期刑683頁、保安処分708頁、暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（暴対法）727頁、予防拘禁781頁、ラディカル犯罪学782～783頁、労作処分796～797頁
- 〔監修〕龍谷大学矯正・保護研究センター編『国際的視野から見た終身刑―死

刑代替刑としての終身刑をめぐる諸問題―』（成文堂）2003年10月
「はじめに」ⅰ～ⅱ
「シンポジウムの趣旨と日本の議論状況について」４～12頁
「質疑応答から」130～140頁（桑山亜也との共著）

- 佐藤進他編『現代社会保障・福祉小事典』（法律文化社）：「刑務所出所者の社会復帰」担当42頁　2007年２月
- 〔監修〕死刑適正化プロジェクト「アメリカ合衆国における死刑の公正と適正手続―ワシントンDC死刑調査報告」龍谷法学46巻４号1053～1084頁　2014年３月
- 〔監修〕「〔公開シンポジウム〕刑事裁判と科学鑑定―和歌山カレー事件における科学鑑定の意味―」龍谷法学46巻４号1141～1206頁　2014年３月
- 〔監修・翻訳〕「〔地球的視野の下での日本における死刑の公正と適正手続：2014年アジア犯罪学会（大阪）の死刑セッション報告〕日本における死刑をめぐる現在の状況と議論」龍谷法学47巻４号772～792頁、〔コメント〕コリンズ　メイヴ（石塚伸一訳）「欧州連合の死刑廃止への道」同838～843頁　2015年３月
- 〔監修〕「和歌山カレー毒物混入事件最高裁判決について（2009.4.21）」龍谷法学（田中則夫教授追悼号）48巻１号603～628頁、前書き「科学鑑定と裁判：あるべき科学鑑定を求めて」同 571-574頁　2015年10月
- 〔監修〕「Fairness and Due Process of the Death Penalty in East Asia－－－東アジアにおける死刑の公正と適正手続（１）」龍谷法学48巻３号1209～1273頁　2016年１月
- 「少年法と児童福祉法：児童から少年へ、そして大人へ」藤本哲也＝生島浩＝辰野文理編著『よくわかる更生保護』（ミネルヴァ書房）44～45頁　2016年２月
- 「Fairness and Due Process of the Death Penalty in East Asia：東アジアにおける死刑の公正と適正手続（２）」龍谷法学48巻４号1627～1628頁　2016年３月
- 〔監修〕「〔特集〕ハーム・リダクションとは何か？～多様なアディクションからの回復を求めて～」龍谷法学50巻３号１～84頁　2018年２月
- 〔監修〕「〔調査報告〕薬物依存症回復支援者研修（DARS）セミナー・イン・タイ」龍谷法学50巻３号749～814頁　2018年２月
- 〔監修〕「特集・米国ワシントン州における使役・終身刑調査（2019年３月）―死刑廃止と仮釈放のない終身刑―」龍谷大学矯正・保護総合センター研究年報９号６～58頁、５~66頁　2020年２月
- 〔監修〕「特集・龍谷犯罪学構想の現実的課題への適用」龍谷大学　矯正・保護総合センター研究年報』11号　2022年２月

（１）Ishizuka, Shinichi, “The Application of Ryukoku Criminology to Actual Problems”: The 12th Annual Conference of Asian Criminological Society in Ryukoku University, pp.5-8.

（２）Ishizuka, Shinichi, “Changing Policies from the Cannabis Control Act (1948) in Japan: From Harsh Punishment to Harm Reduction” pp. 43-56.

（３）Ishizuka, Shinichi, “Dynamic Treatment Scheme for Lifers: Is Life Imprisonment without Parole Cruel but Not-Unusual?” pp.102-116.

- 〔監修〕「〔特集〕タイの薬物政策2022年」龍谷大学矯正・保護総合センター研究年報12号（2022年）2023年刊行予定

３　論　文

- 「受刑者の法的地位について：社会的法治国家における行刑」（中央大学大学院に提出）1981年３月提出
- 「刑事政策の危機について：その危機論的位相の再検討」中央大学大学院研究年報13号Ⅰ－２法学研究科篇〔下〕59～73頁　1984年３月
- 「西ドイツ行刑政策の諸相」犯罪と非行に関する全国協議会機関誌30号12～22頁　1984年８月
- 「ドイツ刑事政策の形成とマールブルク綱領1882年の意義―フランツ・フォン・リスト刑事政策構想のイデオロギー批判序説―」中央大学大学院研究年報14号Ⅰ－２法学研究科篇〔下〕55～64頁　1985年３月
- 「西ドイツにおける社会治療施設収容処分規定（刑法第六五条）の削除について：処分による解決と行刑による解決の刑事立法政策的意義についての一試論（一）～（六完）」北九州大学法政論集
  （一）第15巻４号477～531頁　1988年３月
  （二）第16巻１号1～77頁　1988年９月
  （三）第16巻２号231～289頁　1989年１月
  （四）第16巻３・４合併号429～460頁　1989年３月
  （五）第17巻２号207～241頁　1989年11月
  （六完）第17巻３号411～446頁　1930年２月
- 「監獄の近代化と被拘禁者の人権―刑事施設法案の前提理解としての『行刑の民主化』をめぐって―」（日本評論社、法学セミナー増刊総合特集シリーズ41号）160～167頁　1988年１月
- 「我が国における行刑改革の歴史とその前提理解：戦後『民主主義』と刑事施設法案」北九州大学法政論集17巻１号1～55頁　1989年９月

- 「公害罪法と刑事立法政策学―水俣の教訓と刑事法『学』の責任―」刑法雑誌31巻２号232～55頁　1990年12月
- 「『公害罪法』の判例理論：公害モデル論と法解釈についての一考察」（北九州大学法政論集18巻３号）351～391頁　1991年１月
- 「近代刑事法における刑罰と労働：刑務作業における賃金制の意義について」朝倉京一＝阿部純二＝下村康正＝森下忠編『八木國之先生古稀祝賀論文集・刑事法学の現代的展開〔下巻〕〔刑事政策編〕』（学陽書房）92～117頁　1992年６月
- “Todesstrafe und Lebenslange Freiheitsstrafe in Japan: Zur utilitaristischen Basis ihrer Abschaffung”（ドイツ語）北九州大学法政論集21巻３号147～180頁　1994年６月
- 「刑事学におけるパラダイム転換：刑事法学と価値判断について」犯罪と非行101号52～75頁　1994年８月
- 「〔連載　入門・弁護のための刑事政策〕（１）『犯罪白書』を読む」季刊刑事弁護創刊号174～180頁　1995年１月
- 「〔連載　入門・弁護のための刑事政策〕（２）日本型刑事司法のシェイプアップ」（季刊刑事弁護２号）143～149頁　1995年４月
- 「刑法による過去の克服と刑罰法規不遡及の原則」西原春夫他編『下村康正先生古稀記念論文集〔下〕』（成文堂）439～470頁　1995年６月
- 「〔連載　入門・弁護のための刑事政策〕（３）刑罰の戦略的配置：分類処遇は平等原則に反しないのか？」季刊刑事弁護３号158～163頁　1995年４月
- 「〔連載　入門・弁護のための刑事政策〕（４）処遇思想のバージョンアップ～市民の、市民による、市民のための刑事政策～」季刊刑事弁護５号186～190頁1996年１月
- 「人権最前線―刑事確定訴訟記録の閲覧と学問の自由―」法と民主主義306号53～55頁、32頁　1996年３月
- 「〔特集・事件から学ぶ刑事法入門「オウム」・震災を素材として　刑事政策編〕刑罰ってどうやって決まるの？～オウム事件と刑罰理論～」（法学セミナー498号）54～56頁　1996年５月
- 「〔特集・事件から学ぶ刑事法入門「オウム」・震災を素材として　コラム〕天災事変と刑務所の危機管理～その時、収容者たちは？～」法学セミナー498号71～72頁　96年５月
- 「刑事確定訴訟記録の閲覧と学問の自由」北九州大学法政論集24巻１号333～382頁1996年９月
- 「裁判記録の公開と学問の自由」日本の科学者31巻10号545～549頁　1996年７月

- 「組織的犯罪対策法の実体法規定の問題点―組織的犯罪、犯罪収益、没収、追徴に関する規定―」法学セミナー507号４～６頁　1997年１月
- 「刑事確定訴訟記録の閲覧と憲法との交錯」龍谷法学29巻４号835～868頁　1997年３月
- 「〔再論〕刑事確定訴訟記録の閲覧と学問の自由」北九州大学開学五十周年記念論文集139～184頁　1997年３月
- 「刑事政策の国際化と人権の国際化：刑事政策とNGO（非政府組織）の役割」刑法雑誌37巻１号40～51頁　1997年４月
- 「死刑記録の閲覧と市民の知る権利」年報・死刑廃止編集委員会編『死刑―存置と廃止の出会い（年報・死刑廃止1997）』（インパクト出版会）183～193頁　1997年６月
- “The Contemporary Situation of Prisons and Human Rights in Japan: Not the rule of silence, but much more freedom and the rule of law!”, 北九州大学法政論集25巻４号21～636頁　1998年３月
- “Die gegenwärtige Situation des Strafvollzugs und der Menschenrechte in Japan: Keine Herrschaft von Schweigen, sondern vielmehr Freiheit und Rechtsstaatlichkeit!”北九州大学法政論集25巻４号603～620頁　1998年３月
- 「犯罪者処遇モデルの効果」加藤久雄＝瀬川晃編『刑事政策（現代青林講義）』（青林書院）103～112頁　1998年４月
- 「少年法一部改正法律案の刑事立法政策学的一考察～少年法『改正』の隠れた論点～」犯罪と刑罰第14号９～32頁　2000年５月
- 「少年非行『深刻化』の神話」龍谷法学32巻４号1026～1040頁　2000年３月
- 「沖縄矯正・保護参観記一九九九年八月―見返りのシーサーの眺めてきたもの―」矯正講座21号128～171頁　2000年３月
- “Die gegenwaertige Situation des Strafvollzugs und der Menschenrechte in Japan. Keine Herrschaft von Schweigen, sondern noch mehr Freiheit!” in: (Hans-Heiner Kuehne und Koichi Miyazawa［Hrsg.］, Alte Strafrechtsstrukturen und neue gesellschaftliche Herausforderungen in Japan una Deutschland, Duncker & Hunbolt, Berlin: 2000, SS.107～120. 2000年
- 「犯罪者の社会復帰と自助グループの役割～国家的パラダイムから市民的パラダイムへ～」法学セミナー548号70～75頁　2000年７月
- 「薬物依存症と少年非行」法学セミナー551号30～33頁　2000年11月
- 「少年犯罪の凶悪化と刑罰の抑止効果」団藤重光＝村井敏邦＝斉藤豊治編著『「改正」少年法を批判する』（日本評論社）74～87頁　2000年11月

- 「厳罰化と刑罰理論―何故、処罰するのか？」『別冊法学セミナー・法学入門2001』88～90頁　2001年４月、改訂版（『別冊法学セミナー・法学部でいこう！』）68～70頁　2001年４月
- 「刑事政策のパラダイム転換―市民の、市民による、市民のための刑事政策―」刑法雑誌40巻３号299～314頁　2001年５月
- 「犯罪情報の読み方～公的機関に認知されない犯罪を捜査すると～」アエラムック・犯罪学がわかる。（朝日新聞社）170～173頁　2001年６月
- 「人権の国際化と死刑確定者の外部交通―いわゆる『Tシャツ訴訟』を素材に―」龍谷法学34巻１号1～83頁　2001年６月
- 「刑事政策におけるパラダイム革命（再論）―国家的パラダイムから、市民的パラダイムへ―」（龍谷法学34巻２号）187～215頁　2001年９月
- 「日本の無頼な10代“JAPAN'S TOUGH TEENS”」学術の動向６巻９号30～34頁2001年11月
- 「精神科医療と保安処分―ドイツの場合と日本の場合―」法学セミナー563号36～40頁　2001年10月
- 「司法制度改革と犯罪者の処遇」法律時報増刊・シリーズ司法改革Ⅲ最終意見と実現の課題181～184頁　2001年11月
- 「触法精神障害者の処遇と社会復帰―行為者の視点と被害者の視点―」法律時報914号36～42頁　2002年２月
- 「法律よりみた薬物依存・中毒者の処遇に関する法律モデル」『平成13年度厚生科学研究補助金・医薬安全総合事業・薬物依存・中毒の予防、医療およびアフターケアのモデル化に関する研究報告書』33～39頁　2002年３月
- 「治療共同体（TC）とリーガル・モデル（LM）」日本アルコール関連問題学会雑誌2002年149～156頁　2002年５月
- 「世紀末の刑事立法と刑罰理論」法の科学32号36～49頁　2002年８月
- 「ヒト・クローンと刑事規制―クローン人間を作ろうとする行為を刑罰で禁止できるのだろうか？」法学セミナー573号16～19頁　2002年９月
- 「世紀末の刑事立法と刑罰理論」法の科学32号36～49頁　2002年８月
- 「〔法律時評〕刑務所の中の健康診断―名古屋刑務所・職員暴行事件の教訓―」法律時報928号１～４頁　2003年３月
- 「法律よりみた薬物依存・中毒者の処遇に関する法律モデル『平成14年度厚生科学研究補助金・医薬安全総合事業・薬物依存・中毒の予防、医療およびアフターケアのモデル化に関する研究報告書』41～47頁　2003年３月
- 「人権の国際化と被収容者の人権（〔日本刑法学会第80回大会〕ワークショッ

プ）」刑法雑誌42巻３号419～423頁　2003年４月
- 「受刑者処遇の抜本的改革―名古屋刑務所事件と行刑改革会議の行方―」Causa９号46～50頁　2003年10月
- 「非行少年と司法と福祉―『治安回復』の逆風にたつ保護主義―」法学セミナー587号10～15頁　2003年11月
- 「死刑代替刑としての終身刑―その刑罰政策的意味について―」季刊刑事弁護37号30～37頁　2004年１月
- 「終身刑導入と刑罰政策の変容終身刑は死刑の代替刑となりうるか～」現代思想32巻３号170～179頁　2004年３月
- 「犯罪に対する地域社会の責任―安全対策要綱と街路犯罪対策―」法律時報946号39～44頁　2004年７月
- 「〔法律時評〕死刑をめぐる新たな動き―法務大臣！日本は孤立しています！―」法律時報951号１～４頁　2004年12月
- 「ドイツの刑事政策2004年―事後的保安監置をめぐる動き―」龍谷法学37巻４号212～252頁　2005年３月
- 「死刑縮減に向けた新たな展望―死刑事件検証活動（日本版イノセンス・プロジェクト）実施に向けて―」『小田中聰樹先生古稀記念論文集民主主義・刑事法学の展望〔上巻〕』（日本評論社）677～695頁　2005年12月
- 「監獄法改正と死刑確定者の処遇」刑事立法研究会編『代用監獄・拘置所改革のゆくえ』（現代人文社）214～229頁　2005年12月
- 「生命倫理とプライバシー」法律時報968号72～77頁　2006年４月号
- “Todesstrafe in Japan: Schlechtes Gewissen in der internationalen Gemeinschaft“, ZIS, 8/2006, S.330-337.　2006年８月
- 「薬物依存症者の社会内処遇～保護観察の医療化と福祉化～」土井政和編著『更生保護制度改革のゆくえ』（現代人文社）212～233頁　2007年３月
- Shinichi Ishizuka, “Die Stammzellgewinnung aus Embyonen: Das Klonverbot des menschlichen Leben in Japan” in:Hans-Ludwig Schreiber/ Hans Lilie/ Henning Rosenau/ Makoto Tadaki/ Un Jong Pak（Hrsg.), Globalisierung der Biopolitik, des Biorechts und der Bioethik?: Das Leben an seinem Anfang und an seinem Ende, Peter Lang: 2007, S. 73-81.（Vortrag am 31.03.2005 in Halle）123　2007年３月
- 「〔特集・法律入門2007〕刑法学へのいざない―厳罰化で犯罪はなくなるか？」法学セミナー628号30～31頁　2007年４月
- 「〔特集・法律入門2007〕問題の解答例と解説―共謀共同正犯と傷害致死をめぐ

る問題（問題解答篇）」法学セミナー629号41～43頁　2007年５月
- 「21世紀の刑事司法と犯罪被害者」村井敏邦＝川崎英明＝白取祐司編『刑事司法改革と刑事訴訟法〔上〕』（日本評論社）１～32頁　2007年５月
- 「〔法律時評〕動く世界の死刑、孤立する日本～裁判員は、絞殺を命ずることができるのか？～」法律時報993号１～３頁　2008年３月
- 「刑事司法システムにおける規制改革・民営化と公共性の構造転換」法社会学68号93～107頁　2008年３月
- 「戦後監獄法改正史と被収容者処遇法―改革の到達点としての受刑者の主体性―」法律時報999号53～57頁　2008年８月
- 「これからの犯罪者処遇（第６回・完）薬物事犯対策―処罰から治療へ薬物事犯対策―」ジュリスト1362号104～111頁　2008年９月
- 「薬物裁判の二極化と画一的処理―薬物事件処理に関する体験的雑感（提言の若干）」矯正・保護研究センター研究年報５号87～105頁　2008年９月
- 「刑事裁判における被害者の役割―裁判員、被害者参加そして死刑」現代思想36巻13号84～98頁　2008年10月
- 「刑事政策における社会的包摂の意義と課題」日本犯罪社会学会編『犯罪からの社会復帰とソーシャル・インクルージョン』（現代人文社）115～134頁　2009年１月
- 「市民の司法参加と裁判報道のあり方―裁判員裁判、被害者参加、そして死刑―」新聞研究693号41～44頁　2009年４月
- 「和歌山カレー毒物混入事件最高裁判決―弁護人と市民の視点から（裁判員制度の実施と刑事裁判の新しい動き）―」法学セミナー656号60～63頁　2009年８月
- 「和歌山カレー毒物混入事件最高裁判決の証拠構造と問題点（最高裁第３小法廷の２判決―事実認定の明と暗）」季刊刑事弁護59号90～100頁　2009年９月
- 「刑事法の脱構築（12）裁判員裁判シフトの終焉？―厳罰主義の後始末」法と民主主義447号59～63頁　2010年４月
- 「強制執行妨害罪の研究―刑事立法政策学的一考察」龍谷法学42巻３号1020～1064頁2010年　３月
- 「〔特集・裁判員時代における死刑問題〕大量死刑時代の終焉？―厳罰主義の後始末―」法律時報1023号８～12頁　2010年６月
- 「〔特集・「刑罰からの自由」の現代的意義―弁護士業務（民事介入）と共犯責任〕強制執行妨害と専門家の助言―安田弁護士事件判決（東京高裁2008.4.23）」法律時報1025号35～41頁　2010年６月
- 石塚伸一＝丸山泰弘「ドラッグ・コートの思想と実践」季刊刑事弁護64号65～

68頁2010年10月

- 「日本版ドラッグ・コート実現のための障碍とその克服」龍谷大学矯正・保護研究センター研究年報７号４～22頁　2010年10月
- 「日本版ドラッグ・コートを越えて～新たな早期介入の可能性～」犯罪と非行169号132～151頁　2011年８月
- 「宗教教誨における一宗派・強制主義にいついて」浅田和茂＝石塚伸一＝葛野尋之＝後藤昭＝福島至編『人権の刑事法学（村井敏邦先生古稀記念論文集）』（日本評論社）871～895頁　2011年９月
- 「刑事裁判は変わったか？―精密司法から核心司法へ―」『政治変動と憲法理論〔憲法理論叢書⑲〕』（敬文堂）135～152頁　2011年９月
- Shinichi Ishizuka, Socio-Economic Crises and Crime Control Policies in Japan: Symbolic Manipulation of Property or Economic Crimes? , 49 INT'L ANNALS CRIMINOLOGY 1 (2011). p 69-78. 156（英語）　2011年10月
- Ishizuka, Shinichi, "Die Untersuchung ueber die Vereiteln der Zwangsvollstreckung: Eine strafgesetzgebungspolitische Ueberlegung" Ryukoku Corrections and Rehabilitation Center Journal.（ドイツ語）龍谷大学矯正・保護総合センター研究年報１号98～103頁　2012年２月
- 「刑罰の再社会化機能―日本の新行刑法典―」171～187頁、「〔翻訳〕ハンス＝ルートヴィッヒ・シュライバー　刑罰の再社会化機能」188～191頁
  金尚均＝ヘニング・ローゼナウ編著『刑罰論と刑罰正義（龍谷大学社会科学研究所叢書94巻）』（成文堂）171～187頁　2012年３月
- 「法務大臣の職責―死刑執行を命じることは、法務大臣の職責か？」龍谷法学45巻２号377～394頁　2012年10月
- 「犯罪率の低下は、日本社会の何を物語るのか？日本の犯罪は減ったか？減ったとすれば、その原因は何か？―犯罪統制のネット・ワイドニングと刑事訴追の重点主義化」犯罪社会学研究38号36～52頁　2013年10月
- 「〔特集・保安処分化する刑事罰と責任論・刑罰論の課題〕ドイツにおける保安拘禁の近年の情況について：保安監置をめぐる内外の動向」刑法雑誌53巻１号34～70頁　2013年10月
- 「犯罪者の更生への刑事弁護人の関わり方―弁護士は、依頼者の更生に関われるか？関わるべきか？」後藤昭＝高野隆＝岡慎一編著『弁護人の役割（実務体系現代の刑事弁護１）』（第一法規）79～98頁　2013年10月
- 「和歌山カレー毒物混入事件再審請求と科学鑑定―科学証拠への信用性の揺らぎ」法律時報1077号96～103頁　2014年　９月

- 「欧州薬物調査シリーズ（１）ドイツの薬物事情・2014年夏」龍谷法学47巻４号845～908頁　2015年３月
- 「〔特集・死刑の論点〕18歳の君に―あなたは、死刑を言い渡しますか？」法学セミナー732号12～21頁　2016年１月
- 「再度の執行猶予再考―「開かずの扉」か？それとも「狭き門」か？―」龍谷法学48巻３号1031～1060頁　2016年１月
- 「再論・死刑と憲法―死刑は、すでに終わった問題なのか？」『年報・死刑廃止2016死刑と憲法』（インパンクション出版）52～86頁　2016年10月
- 「長期・不定期拘禁における行刑の社会化について～危険社会におけるリスク評価と社会復帰の支援～」井田良＝井上裕＝白取祐司＝高田昭正＝松宮孝明＝山口厚編著『浅田和茂先生古稀祝賀論文集〔下巻〕』（成文堂）613～636頁　2016年10月
- 「アムステルダムの奇跡の『神話』―自由刑における「懲治（しつけ）」と労働―」徳田靖之＝石塚伸一＝佐々木光明＝森尾亮編著『刑事法と歴史的価値とその交錯（内田博文先生古稀祝賀論文集）』（法律文化社）655～684頁　2016年11月
- 「〔創生・新時代の犯罪学・共生の時代における合理的刑事政策〕犯罪学者のアイロニー―犯罪の減少をどう説明するか？―」社会科学研究年報47号57～72頁　2017年５月
- 「薬物政策の未来予想図―薬物処罰も超えて、ドラッグ・コートも超えて―」指宿信＝木谷明＝後藤昭＝佐藤博史＝浜井浩一＝浜田寿美男編著『シリーズ刑事司法を考える第６巻・犯罪をどう防ぐか』（岩波書店）226～251頁　2017年６月
- 「被害者問題のポリティクス～刑事司法は、犯罪被害者のためにあるのか？～」（指宿信・木谷明・後藤昭・佐藤博史・浜井浩一・浜田寿美男編著『シリーズ刑事司法を考える第４巻・犯罪被害者と刑事司法』（岩波書店）２～25頁　2017年９月
- 「和歌山カレー事件再審請求棄却―科学と論理を歪曲した和歌山地裁決定」季刊刑事弁護92号106～113頁　2017年10月
- 「〔創生・新時代の犯罪学：共生の時代における合理的刑事政策〕犯罪人像のパラダイム転換～先祖返り（遅れている人）から、過適応者（急ぎすぎる人）へ～」龍谷大学社会科学研究所年報48号（2017年度）79～90頁　2018年５月
- 「デリダと死刑廃止運動―教祖の処刑の残虐性と異常性」高桑和巳編著『デリダと死刑を考える』（白水社）205～238頁　2018年12月
- 「刑事政策の危機と創生・新時代の犯罪学―“つまずき”からの“立ち直り”の科学

に寄せて」龍谷大学社会科学研究所年報49号（2018年度年）71～80頁　2019年７月

- 中谷こずえ＝五十嵐弘志＝石塚伸一＝臼井キミカ＝原田英子「社会復帰を目指す男性受刑者の健康実態―医務受診に関するアンケート調査から」岐阜保健大学紀要2019年度１号114～119頁　2019年12月
- 「再審中の死刑執行について」編集委員会編『冤罪白書』（燦燈出版）187～192頁　2020年２月
- 中谷こずえ＝五十嵐弘志＝石塚伸一「社会復帰を目指す成人男性受刑者の健康実態と健康意識：健康問題からケアニーズ抽出を目指して」人間福祉学会誌20巻１号67～74頁　2020年３月
- 「幸徳秋水大逆事件（1911年）の研究（１）連載を始めるにあたって」龍谷法学53巻４号1473～1492頁　2021年３月
- 「刑事確定訴訟記録と学問の自由：学術に対する介入と研究者の“現存在（Dasein）”」龍谷法学53巻４号1081～1107頁　2021年３月
- 「危機の時代における新しい犯罪学・創生：“つまずき”からの“立ち直り”を支援する新たな学融領域」2020年度人間・科学・宗教総合研究センター研究紀要（Ryukoku Journal of Peace and Sustainability）37～53頁　2021年３月
- Shinichi Ishizuka, “Globalization of Japanese Criminology after the Kyoto Congress and 12th ACS2020”, Ryukoku Journal of Peace and Sustainability 2020, pp.113-122.　2020年
- Shinichi Ishizuka, “Whither Criminology?: Crime, Justice, and Social Order during a Time of Pandemic in Japan” Ryukoku Journal of Peace and Sustainability, 2020, pp.145-153.　2021年３月
- Akiko Kogawara＝ Natsuki Morimoto＝ Akiko Misu＝ Shin-ichi Ishizuka, “［Special Issue］Ryukoku Criminology Achievements of Students and Teachers at the Kyoto Congress 2020”, Ryukoku Journal of Peace and Sustainability 2021, pp.95-122.　2022年３月
- 「自由刑の単一化と純化をめぐる連続と不連続―2022年６月３日拘禁刑導入法の刑事政策学的意味―」赤池一将＝石塚伸一＝斎藤司＝武内謙治編『刑事司法と社会的援助の交錯（土井政和先生・福島至先生古稀記念論文集）』（現代人文社）31～53頁　2022年11月

４　判例評釈、資料、翻訳、書評、学界回顧など

- 「〔紹介〕ヴィンフリート・ハッセマー『アルトゥール・カウフマンの業績にお

けるヘルメノイティク』」警察研究57巻１号72～77頁　1986年１月
- 「〔紹介〕ウルフリット・ノイマン『哲学的ヘルメノイティクと法学的ヘルメノイティクの関係について』」警察研究57巻７号72～77頁　1986年７月
- 「〔書評〕石村＝所＝西村編『責任と罰の意識構造』」犯罪社会学研究11号228～235頁1986年９月
- 刑事立法研究会「監獄法改正―拘禁二法―問題関連事項略年表および文献」法律時報60巻３号55～62頁　略年表担当　1988年３月
- 「〔試訳〕連邦参議院提出法律草案『行刑法一部改正法律草案』」、「〔試訳〕法務委員会（第六委員会）『議決勧告及び報告書：連邦参議院提出「行刑法一部改正法律」について』北九州大学法政論集15巻４号21～55頁　1988年３月
- 「『使い捨て』時代の犯罪報道：ロリータ達の二つの悲劇1989夏」九州矯正311号27～42頁　1989年12月
- 「刑事処分を望む少年の場合（東京家裁昭和36年７月17日決定家庭裁判月報13巻９号130頁）」（田宮裕編『少年法判例百選』別冊ジュリスト147号130～131頁1998年６月
- 「少年法『改正』論議の現状と課題“裁判官は裸だ”」法と民主主義334号52～53頁　1998年12月
- 「〔日本刑法学会第67回大会・学会記録〕ワークショップ『自由刑の課題』」刑法雑誌30巻４号582～586頁　1990年３月
- 特集「数字に強くなる」（刑事制度篇）法学セミナー427号　1990年７月
  「保釈率：22.0％　自由の値段」46頁
  「有罪率：99.86％　裁判所は有罪を確認するところ」47頁
  「仮釈放率：55.4％　建前と本音のアイロニー」51頁
- 「〔翻訳〕ウォルフガング・ゼラート『ドイツ刑事司法史における自由刑の起源と展開について』」北九州大学法政論集18巻２号335～350頁　1990年９月
- 刑事立法研究会「刑事拘禁法要綱試案」法律時報63巻６号54～85頁　1991年５月
- 「〔紹介〕ロルフ・J・デ・フォルテール『刑事司法システムに対するアボリショニスト・アプローチの方法論的基礎について：フーコー、ウルスマン及びマシーセンのアボリショニズムの理念の比較研究』」警察研究62巻５号77～82頁、警察研究62巻６号77～82頁　1991年５月・６月
- 特集「刑事システムのキーワード」法学セミナー439号　1991年７月
  「逮捕・検挙―おもいっきり曲学阿世―」29頁
  「未決勾留・保釈―刑事裁判における時の魔術―」34頁
- 「学界回顧（刑事政策担当）」法律時報63巻13号43～49頁　1991年12月

- 「1992年司法試験論文式全科目解説／刑事政策」『法学セミナー臨時増刊』73～75頁　1992年10月
- 「〔講演〕ハンス＝ルートヴィッヒ・シュライバー　旧東西ドイツ国境における銃器使用の刑法的責任」北九州大学法政論集21巻３号279～298頁　1993年12月
- 「ドイツ刑事施設管見：『のんびり』社会と個人の『自主性』」九州矯正48第３号29～52頁　1994年９月
- 「〔犯罪研究動向〕変容する現代社会における犯罪と刑罰：ドイツ刑法学者大会（バーゼル）から国際犯罪学会（ブタペスト）へ」犯罪社会学研究19号124～130頁　1994年11月
- 「私の死刑廃止論」（佐伯千刃＝団藤重光＝平場安治編著『〔法セミセレクション〕死刑廃止を求める』（日本評論社）137頁　1995年１月
- 「〔翻訳〕ハインツ・シェッヒ　ドイツにおける極右的暴力行為」北九州大学法政論集24巻２・３合併号271～298頁　1996年11月
- 「裁判記録の公開と学問の自由」日本の科学者31巻10号545～549頁　1996年９月
- 「〔翻訳〕ゲッティンゲン大学学長ハンス＝ルートヴィッヒ・シュライバー　北九州大学50周年式典への祝辞」北九州大学法政論集24巻４号742～754頁　1997年３月
- 「〔資料〕死刑事件に関する刑事確定訴訟記録の閲覧」北九州大学法政論集24巻４号705～740頁　1997年３月
- 「刑事法学からのコメント」法の科学26号97～100頁　1997年７月
- 「〔ワークショップ要旨〕刑事政策の国際化と人権の国際化」刑法雑誌37巻４号371～375頁　1998年４月
- 「刑事手続におけるリーガル・サーヴィスの空白」近弁連会報68号28～29頁　1998年11月
- 「（刑事法学の動き）川崎英明著『現代検察官論』（日本評論社：1998年）」法律時報71巻１号88～91頁　1999年１月
- 「〔対談〕保坂展人・石塚伸一　死刑制度にとって情報公開とは」（年報・死刑廃止編集委員会『年報・死刑廃止1999』（インパンクション出版会）26～59頁　1999年11月
- 「少年法改正と犯罪・非行情報」日本犯罪社会学会『第二六回大会報告要旨集』38～39頁　1999年12月
- 「『平成11年度版・犯罪白書』を読んで―犯罪白書と情報公開―」季刊刑事弁護21号90～92頁　2000年１月

- 「〔講演〕ハンス＝ルートヴィッヒ・シュライバー　生命倫理に関するヨーロッパ人権条約―ヨーロッパの法的統一への道程におけるひとつの重要な進歩―」龍谷法学32巻４号836～851頁　2000年３月
- 「〔講演〕エミール・プリヴァチェフスキー　ポーランドにおける死刑廃止」龍谷法学32巻４号869～887頁　2000年３月
- “Die gegenwaertige Situation des Strafvollzugs und der Menschenrechte in Japan. Keine Herrschaft von Schweigen, sondern noch mehr Freiheit!“ in: (Hans-Heiner Kuehne und Koichi Miyazawa［Hrsg.］, Alte Strafrechtsstrukturen und neue gesellschaftliche Herausforderungen in Japan una Deutschland, Duncker & Hunbolt, Berlin: 2000, SS. 107～120. 78　2000年
- 「〔特別講演〕子どもの病気とトラウマからの回復～あるネフローゼ症候群患者の場合～」日本腎不全看護学会誌２号16～19頁　2000年４月
- 「中学生・高校生の薬物濫用の現状と対策～北風と太陽のこころ～」北九州ダルク編『今日一日クスリを止められますように！―北九州ダルクの実践と薬物防止プログラム―Justfortoday』（向陽舎）132～142頁　2000年５月
- 「少年法『改正』の現状と課題」龍谷大学同和問題研究委員会編『同和問題講演資料集ＸＩ』63～110頁　2000年６月
- 「〔書評〕拘禁二法対策本部編『刑事施設等における人権救済事例集』」拘禁二法案対策本部ニュース2000年10月号・11月号　2000年10月・11月
- 「フォトレポート・世界ジャスティス紀行・ドイツ・ゲッティンゲン地方裁判所～想い出の裁判所～」季刊刑事弁護24号８～９頁　2000年10月
- 「〔翻訳〕マンフレッド・マイヴァルト『ドイツにおける法曹養成（Juristenausbildung in Deutschland)』」龍谷法学33巻４号122～144頁　2001年３月
- 「犯罪の被害者と加害者～法廷から抜け出そう～」月刊・ボランティア363号11頁　2001年３月
- 「〔対談〕菊田浩一・安田好弘・石塚伸一・筒井修・寺田恵子・岩井信死刑制度にとって情報公開とは」年報・死刑廃止編集委員会『年報・死刑廃止2000～2001』（インパンクション出版会）６～44頁　2001年３月
- 「人身保護請求人として」年報・死刑廃止編集委員会『年報・死刑廃止2000～2001』（インパンクション出版会）135～138頁　2001年３月
- 「京都・当番弁護士を支える市民の会～３年目を迎えて～」刑事弁護ニュース27号13～16頁　2001年３月
- 「〔巻頭言〕二十一世紀の刑事政策」矯正講座22号１～３頁　2001年３月
- 「しまなみ海道矯正施設参観記二〇〇〇年八月」矯正講座22号225～226頁

2001年　３月

- 「〔巻頭言〕捜査情報漏洩事件と司法情報の公開～ヒーロー（HERO）をめざす人たちへ～」受験新報2001年６月号１頁　2001年５月
- 「平成12年版犯罪白書を読む～経済犯罪・暴力団犯罪を巡る状況を中心に～」季刊刑事弁護26号102～105頁　2001年５月
- 「渡部保夫先生古稀記念論文集・誤判救済と刑事司法の課題」自由と正義52巻６号139頁2001年６月
- 「司法制度改革と21世紀の刑事政策～少ない犯罪・小さな刑務所から、多くの犯罪・大きな刑務所へ？～」東京西北ロータリークラブ週報43巻38号　2001年６月

「（刑事法学の動き）松本良夫「わが国の犯罪事情の特異性：検挙人員『少年比』の異常高に関する考察（犯罪社会学研究24号〔1999年〕129～147頁）」龍谷法学34巻２号１～７頁2001年９月

- 「学界回顧（刑事政策担当）」法律時報73巻13号64～71頁　2001年12月
- 「北海道街道矯正・保護参観記二〇〇一年八月―北海道の刑事施設――」矯正講座23号139～141頁　2002年３月
- 「平成13年版犯罪白書を読んで～犯罪と犯罪者は増加しているか？～」季刊刑事弁護30号125～129頁　2002年３月
- 「矯正施設参観記2002年度『矯正・保護課程』共同研究・施設参観報告」矯正講座24号229～232頁　2003年３月
- 「人権の国際化と被収容者の人権（〔日本刑法学会第八〇回大会〕ワークショップ）」刑法雑誌42巻３号419～423頁　2003年４月
- 「2003年度『矯正・保護課程』共同研究・施設参観報告」矯正講座25号170～174頁　2004年３月
- 「学界回顧（刑事政策担当）」法律時報74巻13号67～74頁　2002年12月
- 「平成14年版犯罪白書を読んで～犯罪と犯罪者は増加しているか？～」０季刊刑事弁護34号28～33頁　2003年７月
- 「龍谷大学法科大学院～ダブルスクール不要の法科大学院～」ビジネス法務３巻９号54～59頁　2003年８月
- 「刑事政策」『アエラムック・法科大学院がわかる』（朝日新聞社）53頁　2003年11月
- 「学界回顧（刑事政策担当」（赤池一将との共著）法律時報75巻13号67～74頁2003年12月
- 「薬物依存からの回復モデル」日本犯罪社会学会編『第30回大会報告要旨集』

47～49頁　2003年12月

- 「『刑務所』の実際」別冊法学セミナー法学入門2004（日本評論社）112～113頁 2004年４月
- 「〔座談会〕司法改革と死刑―冤罪は増えるか」年報・死刑廃止編集委員会『年報・死刑廃止2004』（インパンクション出版会）114～157頁　2004年９月
- 「〔講演〕『刑法改正』問題を考える（2004年６月27日）」監獄通信87号４～13頁 2004年　９月
- 「〔書評〕北澤信次著『犯罪者処遇の展開―保護観察を焦点として―』」犯罪社会学研究29号139～141頁　2004年10月
- 「〔講演〕刑法第96条の２導入の歴史的現在」日本弁護士連合会『全国冤罪事件弁護団連絡会議の第３回交流会・記録』　2004年11月
- 「ポーランドの行刑事情2004年春」龍谷法学37巻３号878～901頁　2004年12月
- 「現在の治安情勢とその対策～岐路に立つ日本の刑事政策～」（衆議院調査局決算行政監視調査室）　2005年３月
- 「過剰拘禁と薬物対策～刑事司法のバランスの復活～」日本犯罪社会学会大会報告要旨集（第32回）63～64頁　2005年12月
- 「医療刑務所における看護士暴行事件～刑事施設における死亡原因の究明～」犯罪と刑罰17号131～153頁　2006年３月
- 調査報告書　日弁連死刑執行停止法制定等提言・決議実現委員会『ドイツ・イギリス調査報告書―死刑廃止国におけるえん罪・被害者・代替刑―』日本弁護士連合会　2006年３月
- 「死刑をめぐる内外の動き～事実に基づく死刑政策～」犯罪社会学研究31号153～158頁2006年10月
- 〔編集〕「〔翻訳〕ギーセン・コロキウム 死刑廃止をめぐる議論―ヨーロッパと日本の立場―」龍谷法学39巻１号83～96頁　2006年６月、同巻３号108～260頁 2006年12月
- 「〔特集・法律入門2007【魅力紹介編】〕刑法の世界へ　齋之以刑、民免而無恥～厳罰化をめぐる話題～」法学セミナー628号32～37頁　2007年４月
- 「〔特集・法律入門2007〕刑法学の問題―共謀共同正犯における主観と客観の学習（問題解答篇）」法学セミナー629号30～37頁　2007年５月
- 「医療刑務所看護士暴行事件」福島至編著『法医鑑定と検死制度』（龍谷大学社会科学研究所叢書74巻、日本評論社）115～134頁　2007年５月
- 「〔シンポジウム〕被害者参加で裁判はどう変わるか」JCLU Newsletter364号１～４頁　2007年９月

- 「〔講演〕現在の治安状況とその対策」天理教社会福祉24号15～38頁　2007年10月
- 「〔書評〕渡邊一弘『少年の刑事責任――年齢と刑事責任能力の視点から』（専修大学出版局、2006年）」犯罪社会学研究33号215～218頁　2008年10月
- 「〔講演〕福島至＝石塚伸一　龍谷大学特別研修講座『矯正・保護課程』開設三〇周年記念事業」矯正講座29号１～３頁　2009年３月
- 「長期受刑者の処遇」矯正講座29号251～257頁　2009年３月
- 「〔特集・ゼロから学ぼう法律学・法学入門2009〕刑事訴訟実務入門―研究者がなぜ弁護士をするのか？」法学セミナー652号41～44頁　2009年４月
- 「命（いのち）の重み」（村井敏邦＝後藤貞人編『被告人の事情／弁護人の主張―裁判員になるあなたへ―』法律文化社）13～17頁　2009年５月
- 「（犯罪研究動向）新たな時代状況における薬物対策―“薬物との戦争（War on Drugs）”の終焉？―」犯罪社会学研究34号164～170頁　2009年10月
- 「〔国際シンポジウム〕刑務所の民営化にいかに向き合うか―海外の経験と日本の選択（特集・日本型民営刑務所と日本型行刑の課題）―」龍谷大学矯正・保護研究センター研究年報６号７～30頁（村井敏邦、石塚伸一、Vivian Stern他）　2009年10月
- 「薬物依存が病気であることをまず認識すべきだ 日本は薬物への認識が低すぎる（のりピー騒動と薬物汚染）」創439号28～35頁　2009年11月
- 「〔報告〕二人の犯罪少年―時代的移送の“ゆがみ”と“まなざし”の変化―」日本犯罪社会学会第36回大会報告要旨集７～10頁９　2009年12月
- 「裁判員制度、被害者訴訟参加、そして死刑」浄土真宗総合研究５号149～199頁　2010年３月
- 「高知刑務所参観記」矯正講座30号164～166頁　2010年３月
- 石塚伸一＝後藤貞人＝田鎖麻衣子他「〔座談会〕裁判員裁判の下で死刑の縮減・廃止を展望できるか（特集・裁判員時代における死刑問題）」法律時報82巻７号13～32頁　2010年６月
- 「龍谷大学矯正・保護研究センター八年の歩みとこれからの展望」青少年問題639号54～57頁　2010年７月
- 「〔日民協創立50周年記念特集・時空を越えた次世代へのメッセージ〕市民による陪審制」法と民主主義461号　2011年９月
- 「〔書評〕佐藤哲彦著『ドラッグの社会学――向精神物質をめぐる作法と社会秩序』（世界思想社、2008年）」（『犯罪社会学研究』第35号）188～191頁　2010年10月
- 「『回復』につきあいつづける―ダルクの度量」現代思想38巻14号59～79頁

2010年12月

- 「人間を大切にする刑事政策を求めて―ノルウェー犯罪学の実験―」龍谷大学矯正・保護総合センター研究年報１号３～62頁、（特集の編集ならびに「N・クリスティとノルウェー犯罪学」および「〔基調講演解題〕N・クリスティはかく語った」54～60頁担当）　2012年２月
- 「〔基調講演〕経済危機と犯罪統制政策―財産犯罪と経済犯罪の象徴的操作」矯正講座32号３～16頁　2012年３月
- 「〔翻訳〕ハンス＝ルートヴィッヒ・シュライバー「刑罰の再社会化機能」金尚均＝ヘニング・ローゼナウ編著『刑罰論と刑罰正義（龍谷大学社会科学研究所叢書94巻)』（成文堂）186～188頁　2012年３月
- 「死刑は残虐である―「此花パチンコ店放火事件」傍聴記」（堀川惠子＝布施勇如との共著）龍谷法学45巻１号155～242頁　2012年７月
- 「〔書評〕本田宏治著『ドラッグと刑罰なき統制――不可視化する犯罪の社会学』」犯罪社会学研究37号157～160頁　2012年10月
- 「〔特集・刑事司法情報と法教育：裁判員裁判時代の法教育のゆくえ〕共同研究の趣旨」『刑法雑誌52巻１号1～15頁　2013年３月
- 「〔基調講演〕経済危機と犯罪統制政策：財産犯罪と経済犯罪の象徴的操作」矯正講座32号３～16頁　2013年３月
- 報告書「〔全体会１〕基調報告「経済危機と犯罪統制政策――財産犯罪と経済犯罪の象徴的操作」『国際犯罪学会第16回世界大会・報告書』30～36頁　2012年３月
- 「〔シンポジウム〕東アジアと米国における死刑」（日本語）17～19頁、“The Death Penalty in East Asia and the United States”（英語）114～166頁　矯正講座32号　2013年３月
- 「日本版ドラッグ・コート構想（The Concept of Japanese Drug Court: from punishment to harm-reduction)」矯正講座32号（日本語）67～112頁、（英語）167～225頁　2013年３月
- 「〔講演〕グンナードゥトゲ　刑事司法における素人参加―ドイツの最新の議論について―」龍谷法学46巻４号1117～1140頁　2014年３月
- 「〔第48回教誨師中央研修会シンポジウム〕いま、教誨に願われていること

（コーディネーター：石塚伸一、パネラー：古川髙志、宮川 憲一他」教誨48号157～189頁　2014年３月
- 「〔講演〕アルント・ジン　刑罰とは何か。そして、処分とは何か？」龍谷法学

47巻１号149～171頁　2014年８月

- 「絞首刑の残虐性をめぐる議論と経過」大阪弁護士会死刑廃止検討プロジェクトチーム編『終身刑を考える』（日本評論社）52～73頁　2014年９月
- 「第３回日本更生保護学会大会の学術企画シンポジウムと第４分科会の報告」更生保護研究７巻53～125頁　2015年12月
- 「刑の一部執行猶予」導入～清原報道が触れなかった薬物対策の大きな変化～」創46巻７号94～101頁　2016年８月
- 「犯罪社会学におけるリスク社会論の意義～犯罪社会学におけるリスク社会論の意義～」犯罪社会学研究41号４～９頁　2016年10月
- 「〔ドイツ刑事法コロキウム〕現代刑事法学の課題：ドイツの視点、日本の視点」龍谷法学49巻２号505～508頁　2016年11月
- 「〔書評〕藤本哲也著『犯罪はなぜくり返されるのか：社会復帰を支える制度と人びと』」更生保護学研究10号33～36頁　2017年６月
- 「〔巻頭言〕第27回日本嗜癖行動学会京都大会を終えて：現代社会における依存と嗜癖：回復の多様性を求めて」アディクションと家族（日本嗜癖行動学会誌）33巻１号２～６頁　2017年11月
- 「特集・現代社会における依存と嗜癖：回復の多様性を求めて 第27回日本嗜癖行動学会 記念対談（近藤恒夫＝斎藤学＝石塚伸一）」アディクションと家族（日本嗜癖行動学会誌）33巻１号42～48頁　2017年11月
- 「〔特集・薬物依存と性犯罪〕薬物依存対策の現状はいま…薬物依存めぐる現状と『刑の一部執行猶予』制度」創48巻10号30～36頁　2018年11月
- 「〔特集・刑事手続における薬物依存への早期介入―再犯防止か？社会的支援か？〕共同研究の趣旨」刑法雑誌59巻３号419～423頁　2020年９月
- Shinichi Ishizuka,“ Lebenslängliche Freiheitsstrafe in Japan: Ist die lebenslange Freiheitsstrafe: ohne Bewährung eine grausame, aber übliche Bestrafung?”in: Festschrift fur Emile Plywacszevsky.　刊行予定

５　評論、新聞、ニュースなど

- 「〔論壇〕公選法違反は恩赦の対象外に―政治的利用で腐敗を助長する恐れ―」朝日新聞1990年２月2日朝刊
- 「M氏に対する人権救済の申し立てについて」福岡刑弁ニュース　1994年２月
- 「〔地方からの提言〕地域社会に根ざした刑事司法」西日本新聞1994年７月６日朝刊
- 「『しなやかな』理想主義を期待する」西日本新聞1994年10月23日朝刊

- 「読者が未来形で論議できる報道を」西日本新聞1994年10月30日朝刊
- 「将来の首相候補を福岡県知事に」西日本新聞1994年11月６日朝刊
- 「銃社会への杞憂」西日本新聞1994年11月６日朝刊
- 「頑固オヤジ宣言！子供の権利条約に寄せて」西日本新聞1994年11月20日朝刊
- 「両義性の中で引き裂かれる私の憂鬱」西日本新聞1994年12月25日朝刊
- 「『夫婦別姓』は男女の平等な社会参加のシンボルだったはず」西日本新聞1995年１月22日朝刊
- 「自立する市民の防災対策を」西日本新聞1995年１月29日朝刊
- 「城野医療刑務所看護士暴行（特別公務員暴行致死？）事件について～精神医療の権威と行刑の密行主義の“はざま”で～」監獄人権センター通信４号10頁 1995年４月
- 「刑事法学からのコメント」民主主義科学協会法律部会会報119号７～８頁 1996年12月
- 「組織犯罪対策と刑法学者声明」反戦情報150号18～20頁　1997年２月
- 「薬物依存症からの回復とヴォランティアの役割～北九州ダルクの活動～」（遠賀保健所報告集）　1997年４月
- 「薬物依存症からの回復とヴォランティアの役割～北九州ダルクの活動～」（小倉北公民館）1997年４月
- 「中学生・高校生の薬物乱用の現状と対策～北風と太陽のこころ～」開成学園保健だより２号８～12頁　1997年12月
- 「〔論壇〕少年法論議は科学的・理性的に」朝日新聞2000年11月６日朝刊
- 「M氏の公判再開を求める刑事法研究者の声明」年報・死刑廃止編集委員会『年報・死刑廃止2000～2001』（インパンクション出版会）148～149頁　2001年３月
- 「名古屋刑務所刑務官暴行事件の教訓」京都新聞2003年１月10日
- 「論点・人権に配慮し処遇を」毎日新聞2005年２月28日朝刊

６　講演・シンポジウムなど

- 講演「覚せい剤取締法違反事件と刑事施設の過剰拘禁」主催：大阪弁護士会・フリーダム（2002年12月12日於・大阪弁護士会６階大ホール）（『大阪弁護士会広報』2003年に掲載）
- パネリスト「（社会に開かれた刑務所をめざして・連続シンポジウム・その１）徹底討論・日本の刑務所が変わる！」主催：日本弁護士連合会（2003年９月29日於弁護士会館２階講堂クレオ）

- パネリスト「犯罪被害者と死刑制度」主催：日本弁護士連合会、中部弁護士会連合会、名古屋弁護士会（2004年５月15日於・名古屋弁護士会館）
- 出演「テレビ討論会・犯罪にどう立ち向かうか」（BSディベート・アワー・NHK・BS1）2004年５月30日午後10時～11時49分（再放送６月20日、午後１時～２時49分）
- 講演「死刑に関する国際基準と、世界の状況から見た我が国の現状」主催：日本弁護士連合会、四国弁護士会連合会、愛媛弁護士会（2004年７月17日於・国際ホテル松山）
- パネリスト「台湾・韓国の死刑廃止への道のり」主催：日本弁護士連合会、九州弁護士会連合会、福岡県弁護士会（2004年９月４日於・福岡県弁護士会館）
- 講演「警察官増員は本当に必要なの？～犯罪の増加・凶悪化の神話を斬る！～」連続学習会第１回（2004年10月１日於・エル大阪）
- 講演「共謀罪・強制執行妨害やサイバー犯罪の取締強化の必要性？～何がどう、問題なのか？～」連続学集会第２回（2004年10月29日於・中之島公会堂）
- 講演「代用監獄を必要とする、刑事捜査ってなに？～監獄法改正の陰で～」連続学習会第１回（2004年11月26日於・エル大阪）
- 特別報告「21世紀日本に死刑は必要か――死刑執行停止法の制定と死刑制度の未来をめぐって――」、「イノセント・プロジェクト」日本弁護士連合会第73回人権大会第３分科会（2004年10月６日於・宮崎県シーガイヤ）
- 意見陳述（参議院法務委員会参考人）2004年11月30日（火）13：00～15：00「刑法重罰化改正案について」
- 講義「裁判の仕組みと立ち直りの支援」ともいき大学～知的障害のある市民のための福祉と教養講座～（2004年11月27日於・龍谷大学深草学舎21号館）

〔雑誌論文〕

- 学会報告　“The Overcrowding Prison and Drug Policy in Japan: Re-balancing Criminal Policy”　第14回国際犯罪学会（WCC）（2005年８月７日～11日於・アメリカ合衆国・ペンシルヴェニア大学）
- コロキウムの主催・報告・通訳ギーセン・コロキウム「死刑をめぐる議論：ヨーロッパと日本の立場」（2005年８月22・23日於・ヘッセン州ギーセン大学）
- 学会報告　“The Overcrowding Prison and Drug Policy in Japan: Re-balancing Criminal Policy“　第５回ヨーロッパ犯罪学会（ESC）（2005年８月31日～９月３日於・ポーランド・クラコフ大学）
- 学会報告「〔共同研究〕過剰拘禁と薬物対策～刑事司法のバランスの復活～」刑法学会関西部会（2006年１月28日於・京都大学会館）

- パネリスト　パネル・ディスカッション「刑務所の門を出てから」（2006年３月19日於・大阪NPOプラザ）
- 学会報告「過剰拘禁と薬物対策～刑事司法のバランスの復活～」刑法学会関西部会共同研究（2007年１月28日於・京大会館）
- 講演「薬物依存者の社会内処遇に関する勉強会「過剰拘禁と薬物対策～日本版ドラッグ・コートの提案～」日弁連保釈・勾留改革等非拘禁化に関するワーキンググループ（2007年４月６日於・弁護士会館）
- 学会報告「刑事司法システムにおける規制改革・民営化と公共性の構造転換」日本法社会学会（2007年５月12日於・新潟大学）
- 講演「死刑制度～揺れる存廃論と終身刑導入の是非～」東京弁護士会夏季合同合宿（2007年７月18日於・ホテル日航東京）
- 講演「死刑と終身刑～揺れる存廃論と終身刑導入の問題～」日本弁護士連合会・死刑執行停止決議実現委員会（2007年８月10日於・日本弁護士連合会会館）
- 講演「薬物依存症への新たなチャレンジ～ドラッグ・コート（薬物専門裁判所）とは何か？～」平成19年度滋賀県薬物乱用防止大会（2007年11月28日於・栗東芸術文化会館）
- 授業「薬物離脱教育」（2008年１月31日於・京都拘置所）
- 講演「処罰から回復支援への転換～ドラッグ・コートとは何か？～」違法ドラッグ・薬物依存問題市民フォーラム（2008年２月23日於・横浜市中央児童相談所）
- 報告「薬物依存症への新たな挑戦～日本版ドラッグ・コートの可能性～」主催：国際シンポジウム（2008年３月８日於・順天堂大学）
- 報告「薬物依存症への新たな挑戦～日本版ドラッグ・コートの可能性～」主催：国際シンポジウム（2008年３月10日於・龍谷大学）
- 講演「死刑と裁判員制度」死刑廃止フォーラム90学習会（2008年４月19日於・日本キリスト教会館）
- 学会報告「刑事政策における包摂と排除」日本行政学会総会分科会Fパネルディスカッション「ソーシャルインクルージョンと行政」（2008年５月11日於・成蹊大学）
- 講演「裁判員制度と死刑」市民のための刑事弁護を共に追求する会主催・市民集会（2008年５月24日於・福岡カテドラル・センター・カトリック大名教会）
- シンポジスト「日本版ドラッグ・コートの実現可能性について：社会的資源の活用と多機関連携」（第32回アルコール関連問題学会シンポジウム「司法は早期介入の“入り口”となりうるか」（2010年７月17日於・神戸国際会議場）

- 企画　国際犯罪学会第16回世界大会（2011年８月５～９日於・神戸国際会議場）
  （１）基調講演6101 Plenary 1: Global Economic Crisis and Criminology
  （２）基調報告「経済危機と犯罪統制政策：財産犯罪と経済犯罪の象徴的操作」
  （３）セッション＆ラウンドテーブル〔企画・司会〕石塚伸一＝丸山泰弘
  7108 The Concept of Japanese Drug Court: from Punishment to Harm-Reduction
  7118 Talk a lot about What Is Contemporary Situation of Drug Policy
  （４）セッション＆ラウンドテーブル〔企画・司会〕石塚伸一＝デヴィッド・ジョンソン
  日本犯罪社会学会企画
  “The Death Penalty in East Asia and the United States”
  “Death Penalty from Worldwide Perspective”
- 学会報告　“A New Trend of Drug Treatment in Japan: From Punishment to Harm-Reduction?”, 第34回法と精神健康に関する国際会議（2015年７月14～28日於・ウイーン）
- 学会報告　“Measuring Fairness and Due Process of the Death Penalty in East Asia：Contributions from Japan”アジア犯罪学会第７回大会（2015年６月25日於・香港城市大学）（笹倉香奈と共同で報告）
- 学会報告　セッション企画「DARS薬物政策セッション」東アジア法社会学会議（2015年８月６日於・早稲田大学）（丸山泰弘他と共同で報告）
- 学会報告「DARS薬物政策セッション～日本の薬物政策セッション～」第15回欧州犯罪学会（丸山泰弘他と共同で報告）（2015年９月２～３日於・ポルト大学）
- 学会報告「〔テーマセッション〕刑事政策学の復権～法学教育における刑事政策の意義と展望～」日本犯罪社会学会第42回大会（2015年11月22日於・横浜桐蔭大学）
- 学会報告“Penal Reforms in Japan: Prison Sentences with Forced Labor and Rehabilitative treatment as Punishment”ヨーロッパ犯罪学会（2022年９月21日～24日於・スペイン・マラガ（2022年９月22日報告）

７　科学研究費取得状況

- 龍谷大学研究重点化事業「犯罪学研究センター」（代表・石塚伸一）研究期間2021年４月～2024年３月　配分額：24,000千円（年間8,000千円）
- JSPS国際交流事業・二国間交流事業・共同研究・セミナー「麻酔薬物をめぐる政策、法律および法執行に関する比較研究：タイと日本の国際比較」研究期間

2020年４月～2023年３月、配分総額3,000千円～9,000千円（最大）

- JST/RISTEX戦略的創造研究推進事業・安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築研究開発プロジェクト・定着事業「多様化する嗜癖・嗜虐行動からの回復を支援するネットワークの構築」（研究代表・石塚伸一）研究期間2020年４月～2022年３月、配分総額 90,000千円
  多様化する嗜癖・嗜虐行動からの回復を支援するネットワークの構築
  https://www.jst.go.jp/ristex/pp/project/h28_1.html
- 龍谷大学研究重点化事業「ATA-net研究センター」研究期間2019年４月～2022年３月　配分額：6,000千円
- JST/RISTEX戦略的創造研究推進事業・安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築研究開発プロジェクト「多様化する嗜癖（しへき）・嗜虐（しぎゃく）行動からの回復を支援するネットワークの構築」（研究代表・石塚伸一）研究期間2016年10月～2019年３月、配分総額 30,000千円
- 龍谷大学社会科学研究所指定研究「未公開刑事記録の閲覧と公開に関する研究」研究期間2019年４月～2022年３月
- JSPS科学研究補助金・基盤研究（B）「危険社会における終身拘禁者の社会復帰についての綜合的研究：無期受刑者処遇の社会化」（研究代表・石塚伸一）研究期間2017年４月～2020年３月（2021年度末まで延長）配分総額 17,030千円
- 私立大学研究ブランディング事業「新時代の犯罪学創生プロジェクト～犯罪をめぐる「知」の融合とその体系化～」タイプB（世界展開型）事業期間2016年４月～2021年３月（当初予定）→文部科学省2016～2019年度（中止）→龍谷大学2020年度→新型コロナウイルス流行のため延期2021年度終了
- 「薬物政策への新たなる挑戦：ドラッグ・コートからハーム・リダクションへ」（代表・石塚 伸一）2014年４月１日～2016年３月31日
  研究分野：刑事法学
  研究種目：挑戦的萌芽研究
  研究機関：龍谷大学
- 「犯罪者・非行少年処遇における人間科学的知見の活用に関する総合的研究」（石塚 伸一）2011年７月25日～2016年３月31日
  研究分野：法と人間科学
  研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）
  研究機関：龍谷大学
- 「薬物依存症者回復のための総合的研究―ドラッグ・コート導入のアクションプラン」

（代表・石塚 伸一）2009～2011年度
研究分野：刑事法学
研究種目：基盤研究（B）
研究機関：龍谷大学

- 「薬物依存症者のダイバージョンに関する総合的研究：ドラッグ・コート導入の可能性」
（代表・石塚 伸一）2005～2007年度
研究分野：刑事法学
研究種目：基盤研究（C）
研究機関：龍谷大学
- 「犯罪者の社会復帰と治療共同体-アミティに関する実証的研究」
（代表・石塚 伸一）2001～2003年度
研究分野：刑事法学→刑事法学
研究種目：基盤研究（C）
研究機関：龍谷大学
- 「変動する社会における刑罰の実態分析とその改革のマスタープラン」
（代表・村井 敏邦→後藤 昭）1998～2001年度
研究分野：刑事法学
研究種目：基盤研究（B）
研究機関：一橋大学
- 「刑事司法システムへの市民参加と地方分権：北九州の刑事司法に関するケーススタディ」
（代表・石塚 伸一）1996～1997年度
研究分野：刑事法学
研究種目：萌芽的研究
研究機関：北九州大学

法学会記事

2022年度　法学会研究会

日　時：2022年５月30日（月）17：00～18：30
場　所：龍谷大学　深草学舎　至心館１階ホール
報告者：綿井　健陽氏（ジャーナリスト・映画監督）
　　船越　美夏氏
　　（ジャーナリスト・犯罪学研究センター嘱託研究員）
テーマ：綿井さんと語るウクライナ侵攻

日　時：2022年７月３日（日）10：30～12：00
場　所：龍谷大学　深草学舎　22号館104教室
報告者：佐々木　幹夫氏（NPO法人　竹と緑）
テーマ：SDGsを楽しく学びながら深草伝統“竹のうちわ”を作って暑い夏を乗り越えよう

日　時：2022年12月23日（金）17：00～18：30
場　所：龍谷大学　深草学舎　３号館301教室
報告者：堀川　惠子氏（ノンフィクション作家）
テーマ：死刑を考える一日

日　時：2023年３月17日（金）13：00～15：00
場　所：矯正・保護総合センター　１階　フリースペース
報告者：ヨアヒム・レンツィコフスキー先生（ドイツ、ハレ大学教授）
通　訳：山下裕樹氏（神戸学院大学法学部講師）
テーマ：ドイツ製刑法の発展過程

執　筆　者　紹　介（掲載順）

石　塚　伸　一	本学法学部　教授
金　　尚　均	本学法学部　教授
荻　野　太　司	沖縄国際大学総合文化学部人間福祉学科　准教授
土　山　希美枝	法政大学法学部　教授　元本学法学部　准教授
丸　山　泰　弘	立正大学法学部　教授
大　谷　彬　矩	日本学術振興会特別研究員PD
中　島　　学	矯正・保護総合センター嘱託研究員
岡　本　詔　治	本学　名誉教授
神　吉　正　三	本学法学部　教授
眞　田　章　午	本学法学部　非常勤講師
石　井　幸　三	元本学法学部　教授
椛　山　尚　子	本学大学院　法学研究科博士後期課程　院生
児　玉　　寛	本学　名誉教授

龍谷法学 第55巻　総 目 次

石塚　伸一生献辞 ……丹羽　　徹　［４］…1265

最 終 講 義

［号］　通頁

自由刑の起源とその伝播と継受
～アムステルダム初期懲治場と更生（よみがえり）の思想～
……石塚　伸一　［４］…1267

論　　説

判例内縁法の現代的課題（１）
～平成時代以降の裁判例を中心として～ ……岡本　詔治　［１］…　1

死刑制度をめぐる試論：
死に向かう者の尊厳は保障されているか……古川原明子　［１］…　33

なぜブリュッセルは「テロの温床」と化したのか（１）
……松尾　秀哉　［１］…　87

福島原発事故損害賠償訴訟における慰謝料論の現在と課題
――2022年３月最高裁決定を受けて―― ……若林　三奈　［１］… 123

イギリス行政法における「正当な期待」の法理の展開（１）
―行政法裁判例・判例の展開と裁判所の役割を中心に―
……眞田　章午　［１］… 161

「法社会学論争」の教訓（二十）
――市民法学（ないし市民法論）の＜戦前＞と＜戦後＞・ひとつの素描――
――昭和初期：末川博の民法学（「権利侵害論」）――
……川角　由和　［１］… 197

外国人のヒューマンライツ（その３）
――ヒューマンライツと人権は同じなのか？……戸塚　悦朗　［１］… 237

幸徳秋水大逆事件（1911年）の研究（10）
～大逆事件における供述分析：本件判決を根拠づける被告人らの
供述とその形成過程（３・完）～ ……浜田寿美男／山田　早紀　［１］… 279

銀行と倉庫業の関係
―明治・大正時代を中心として― ……神吉　正三　［２］… 563

判例内縁法の現代的課題（２）
～平成時代以降の裁判例を中心として～ ……岡本　詔治　［２］… 597

「法社会学論争」の教訓（二十一）
――市民法学（ないし市民法論）の＜戦前＞と＜戦後＞・ひとつの素描――
――昭和初期：橋本文雄の社会法的法源論と平野義太郎のマルクス主義法学――
……川角　由和　［２］… 629

外国人のヒューマンライツ（その４）
――海図を求める旅そしてヒューマンライツの歴史 ……戸塚　悦朗　［２］… 667

なぜブリュッセルは「テロの温床」と化したのか（２）
……松尾　秀哉　［２］… 723

イギリス行政法における「正当な期待」の法理の展開（２）
―行政法裁判例・判例の展開と裁判所の役割を中心に―
……眞田　章午　［２］… 751

英領西アフリカの植民地精神医療
ロバート・カニンガム・ブラウンによる、
精神病者のケアと処遇に関する1936年調査 ……落合　雄彦　［３］… 851

銀行の他業禁止規制に関する歴史的考察（１）
―銀行はなぜ他業を営むことを禁止されるのか― ……神吉　正三　［３］… 879

ドイツにおける社会保険適用
――2019年６月４日BSG判決（B 12R 11/18R）をてがかりに
……木下　秀雄　［３］… 923

埋もれたヒューマンライツ（その１）
――human rightsの誕生物語……戸塚　悦朗　［３］… 955

判例内縁法の現代的課題（３）
～平成時代以降の裁判例を中心として～ ……岡本　詔治　［３］… 995

「法社会学論争」の教訓（二十二）
――市民法学（ないし市民法論）の＜戦前＞と＜戦後＞・ひとつの素描――
――昭和初期：加古祐二郎の法学理論――
……川角　由和　［３］…1027

なぜブリュッセルは「テロの温床」と化したのか（２・補論）
……松尾　秀哉　［３］…1067

イギリス行政法における「正当な期待」の法理の展開（３）
―行政法裁判例・判例の展開と裁判所の役割を中心に―
……眞田　章午　［３］…1087

フェイクニュースに対する法的規制の可能性 ……金　尚均　［４］…1301

地方裁判所死刑判決数（1952年－2021年）の
地理的偏在性に関する研究序説 ……荻野　太司　［４］…1343

市民政策の起点と実体
―「政策主体としての市民」のパラダイム転換をめぐって―
……土山希美枝　［４］…1375

問題解決型裁判所が解決すべき「問題」とは何か
……丸山　泰弘　［４］…1399

無期刑受刑者に対する特別な処遇は正当化できるか
―ドイツにおける「懸隔の要請」の議論を手がかりとして―
……大谷　彬矩　［４］…1429

「矯正」の再検証
――改善更生の持つ意味―― ……中島　　学　［４］…1457

判例内縁法の現代的課題（４）
～平成時代以降の裁判例を中心として～ ……岡本　詔治　［４］…1481

銀行の他業禁止規制に関する歴史的考察（２・完）
―銀行はなぜ他業を営むことを禁止されるのか― ……神吉　正三　［４］…1515

イギリス行政法における「正当な期待」の法理の展開（４）
―行政法裁判例・判例の展開と裁判所の役割を中心に―
……眞田　章午　［４］…1567

研究ノート

商事法研究者の情報発信力の変化
―会社法施行前からの約20年の変遷を踏まえて―　……神吉　正三　［１］… 311

ホームレスの人と人権（その２）……石井　幸三　［１］… 353

幸徳秋水大逆事件（1911年）の研究（11）
～判決の脆弱性（５・完）～ ……金子　武嗣　［１］… 383

Lunatic Asylums in the British Cape Colony, 1846–1910
…… Takehiko Ochiai　［３］…1187

ホームレスの人と人権（その３）……石井　幸三　［３］…1207

ホームレスの人と人権（その４）……石井　幸三　［４］…1609

判例研究

社員２名の合同会社において１名の社員の
除名の請求が認められた事例
——東京地判令和３年11月29日金融・商事判例1641号50頁——
……神吉　正三　［３］…1233

翻　　訳

国連ヒューマンライツ高等弁務官事務所刊『非市民の権利』
……戸塚　悦朗　［１］… 425

イェーリング『ローマ私法における帰責要素』（５）
—R. v. Jhering, Das Schuldmoment im Römischen Privatrecht, 1867—
……ルドルフ・フォン・イェーリング（著）／川角　由和（翻訳）　［１］… 451

ヴァルター・グロップ『刑法総論』（第４版、2015年）（16）
（*Walter Gropp,* Strafrecht Allgemeiner Teil, 4. Auflage, 2015）
……金　尚均・玄　守道（監訳）／山本紘之（翻訳）　［１］… 477

イェーリング『ローマ私法における帰責要素』（６・完）
—R. v. Jhering, Das Schuldmoment im Römischen Privatrecht, 1867—
……ルドルフ・フォン・イェーリング（著）／川角　由和（翻訳）　［２］… 787

国連ヒューマンライツ高等弁務官事務所刊『非市民の権利』（後半）
……戸塚　悦朗　［２］… 809

フェリックス　オリヴィエ＝マルタン
『ローマ法における賃約の分割』（１）
—Félix Olivier-Martin, Des divisions du louage en droit romain, RHD, 15, 1936—
フェリックス　オリヴィエ＝マルタン（著）／椛山　尚子（翻訳）　［３］…1247

フェリックス　オリヴィエ＝マルタン
『ローマ法における賃約の分割』（２）
—Félix Olivier-Martin, Des divisions du louage en droit romain, RHD, 15, 1936—
フェリックス　オリヴィエ＝マルタン（著）／椛山　尚子（翻訳）　［４］…1647

資　　料

名古屋地方裁判所2021年３月30日建築工事差止等請求事件判決
—子どもの権利条約の幼稚園児への適用事例—
……丹羽　　徹／清田　雄治　［１］… 497

「木庭先生の庭」散策（１）
——法学再入門のための標準装備——　……児玉　　寛　［３］…1133

ドイツ刑法旧48条の合憲性
連邦憲法裁判所1979年１月16日第二法廷判決（紹介）
……佐土美由紀　［３］…1169

「木庭先生の庭」散策（２）
――法学再入門のための標準装備――　……児玉　寛　［４］…1663

石塚伸一 教授　略歴および業績一覧 ……1703

法学会記事……1731

第55巻総目次…… 471

法学会消息…… 545

法学会2021年度決算報告書…… 553

法学会会則…… 558

The Commemorative Issue for the Retirement of Prof. Shinichi ISHIZUKA

Farewell Address to Prof. Shinichi ISHIZUKA
…… Toru NIWA (1)

Final Lecture

Die Entstehung der Freifeitsstrafe und Ihre Rezeption und Verbreitung : Amsterdamer Zuchthäuser und die Idee des "Wiederauflebens"
…… Shinichi ISHIZUKA (3)

Articles

Normative Bekämpfung von Fake News
…… Sangyun KIM (37)

An Introduction to a Study on the Geographically Uneven Distribution of the Number of Death Sentences in District Courts
…… Hiroshi OGINO (79)

A study of the start and development of "Civil Policy" in Japan
—For the paradigm shift into 'citizen-led policy'. —
…… Kimie TSUCHIYAMA (111)

What is the "Problem" that Problem Solving Court have to solve?
…… Yasuhiro MARUYAMA (135)

Kann eine Sonderbehandlung von lebenslänglichen Gefangenen gerechtfertigt sein?
Überlegungen zur Debatte über das " Abstandsgebot " in Deutschland
…… Akinori OTANI (165)

Revalidating "Corrections" in Japan
—Meaning of Reform and Rehabilitations—
…… Manabu NAKAJIMA (193)

Li problemi contempronei sulla convienza *more uxorio* in giurisprudenza (4)
Relativa alle casista in dai tempo Heisei periodo.
…… Shoji OKAMOTO (217)

A Historical Study on Article 12 of Banking Act (2)
…… Shozo KANKI (251)

The Evolution of the Doctrine of Legitimate Expectation in United Kingdom Administrative Law (4)
－Focusing on the Role of Judges in the Development of Court Cases and Precedents－
…… Shogo SANADA (303)

Note

Homeless Persons and their Human Rights
…… Kozo ISHII (345)

Translation

—Félix Olivier-Martin,Des divisions du louage en droit romain,RHD,15,1936—
…… Naoko KABAYAMA (383)

Material

Walks in the garden of Professor Koba (2)
The normal equipment for A New Initiation to Law World
…… Hiroshi KODAMA (399)

2022年度　龍谷大学法学会役員および評議員

会長
丹羽　徹
副会長
橋口　豊
評議員
赤池一将
石埼　学
石塚伸一
石塚武志
今川嘉文
牛尾洋也
大森　健
落合雄彦
川角由和
河村尚志
神吉正三
金　尚均
越山和広
嶋田佳広
鈴木龍也
瀬畑　源
寺川史朗
中田邦博
野々上敬介
橋本祐子
畠山　亮
浜井浩一
濱中新吾
玄　守道
本多滝夫
山田卓平
吉岡祥充
編集委員
古川原明子
斎藤　司
松尾秀哉
若林三奈
庶務委員
武井　寛
濵口晶子
会計委員
堀　清史
会計監査委員
渡辺博明

龍　谷　法　学　第55巻　第４号

2023年３月８日　印刷
2023年３月15日　発行

編集兼発行人　龍谷大学法学会会長　丹羽　徹

発行所　龍谷大学法学会
京都市伏見区深草塚本町67
電話（075）645－7922

印刷所　サンメッセ株式会社
京都市下京区西洞院通七条下る東塩小路町607-10
電話（075）366－0124

RYUKOKU HOGAKU

Ryukoku Law Review

Vol. 55, No. 4 March 2023

The Commemorative Issue for the Retirement of Prof. Shinichi ISHIZUKA

Published by
The Association of Law and Politics
Ryukoku University
Kyoto, Japan